

# スキヨル社のディスクミル



スキヨル社は、違いを作ります



## スキヨル社のディスクミル

全ての動物グループに対して最適な飼料構造

摩耗部品に対する優れた耐久性

低電力消費

能力は時間当たり30トンまで

静寂運転



## 新しい技術そして新しい利点

### 新しい技術と利点

スキョル社のディスクミルは、数年間の製品開発とテストの結果です。目的は、穀物や作物を粉砕するため、低消費電力、静粛性、最小限の粉塵レベルを備えたオールラウンドな粉砕機を開発することでした。同時に、粉砕機は、異なる動物群或いは品種に対して特定の飼料配合に必要な細かさ及び構造に従って、操作中に粉砕度を自動的に調節することが可能でなければなりません。また、既存の飼料配合設備に対しても容易に適合するコンパクトな粉砕機を開発することが目的でありました。粉砕は、タンステンカーバイドで作られた多数の部品で構成されている2枚の円盤の間で行われます。これは、エンジニアリング業界で切削工具の製造に使用されているものと同じ素材です。このように、スキョル社のディスクミルは、品質と製品の面に於いて、一般的な飼料会社だけでなく、現在の最大かつ最もプロフェッショナルな畜産生産者の要求も満たしています。

### 高容量で低消費電力

3つのサイズの粉砕機が用意されています。即ち、5.5kWまたは7.5kWの電動モーターを搭載したSK2500、そして15kW、22kW或いは30kWのモーターを備えたSK5000これらに加えて55kWまたは75kWのモーターを備えたSK10Tです。小麦を粉砕する時、容量は、粉砕機の大きさと粉砕度によって異なりますが、1,000kgから12,000kg / 時間に変動します。一般的な消費電力は、1トン当たりわずか5kWhです。モーターは稼働回転中のディスクに直接取り付けられ、粉砕工程で使用されるモーター全体の動力を確保します。能力は、異なる原材料と必要な粉砕粒度によって変わります。

### 摩耗部品に対する優れた耐久性

粉砕は、2段階で行われます。最初に、原料は、粉砕ディスク間で最終粉砕の前に、2つの入口リングの間で粗く粉砕されます。ディスクは、1,700HVの硬度を有する多数のセグメントで構成されていますが、伝統的なハンマーミルの硬度は、硬化後、僅か600HVです。通常のクリーニングされた穀物を粉砕する場合、最小の粉砕機で1組のディスクの耐久性は5,000トンまで、中型の粉砕機では10,000トンそして粉砕機のサービス間隔が大幅に増加する最大のモデルでは2万トンまでとなります。

### 少ない粉塵と低い騒音レベル

粉砕機は、粉塵の排出を除去する換気無しで作動します。オージェ、エレベータ或いは他のタイプの機械的なコンベアは、粉砕機へそして粉砕機からの搬送のために使用されますが、勿論スキョル社は完全にこれらを供給致します。粉砕機の雑音レベルは、85~90 dB (A) の騒音レベルを持つ伝統的なハンマーミルと比べて時、ユーザーが静かに作動しているように感じる80 dB (A) に過ぎません







## 飼料構造とビルドイン

### 飼料構造

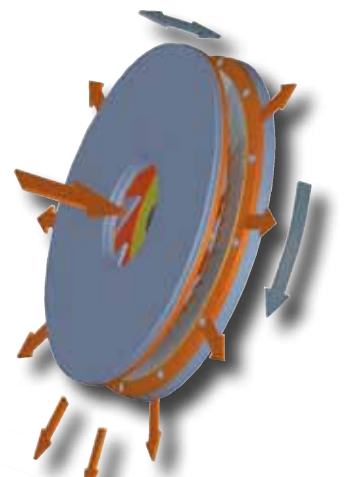
理想的な飼料構造は、異なる種類の原材料の粉碎プロセスが異なるのと同じように、同じ品種の中でのグループそしてすべての動物種に対して同じではありません。それ故、準備された飼料の最適な構造を得るために、操作中および異なる原料混合の間で粉碎粒度を変えることができる事は重要である。2つの粉碎ディスクの間隔は、粉碎度を決定する。そして、ディスクミルは、ディスク間隔を無断調整できるように構築されている。この間隔をディスクミルの前面にあるハンドルを使用して手動で或いは工場の制御システムの設定を受け取る作動装置を介して自動的に変更することが出来ます。

### 組み込み及び使用

コンパクトな仕上がりのため、ディスクミルは、新規プラントと既存プラントの両方に容易に適合します。オージェは、典型的に原材料をディスクミルに搬送するため使用されます。オージェに対する周波数制御の使用で、粉碎机容量の最適な利用を確保します。粉碎された材料をミキサー或いはサイロに搬送

するため、粉碎机の出口にオージェ或いは他のコンベヤを直接取り付けます。原料が多量の不純物を含む場合、不純物が粉碎机の摩耗を増加させるので、粉碎する前にスクリーンクリーナーを使用して原材料を洗浄することが推奨されます。スキョル社は、原料から砂や大きな不純物の両方を分離する効果的なスクリーンクリーナーを提供いたします。

標準装備として粉碎机入口手前に強力なパイプマグネットが装備されるべきです(エクストラ)。ディスクミルは、一般的な総てのタイプの穀物に使用可能です。例えば、原材料を予め前もって粉碎するプレグラインダーとしてまた連続粉碎或いはバッチ生産をベースとした飼料工場での粉碎ユニットとして使用可能です。粉碎机は、テストされ、直径12mmまでのペレットを含む多くの異なる原料の粉碎に適していることが分かっています。





## 自家配飼料生産を操作する制御盤であるフレックスミックス — 将来の要求を全て満たす粉碎/配合コンピュータ

フレックスミックス(FlexMix)は、近代的な農場に於ける飼料生産での生産管理の要求に対するスキョル社の答えです。

毎日の操作を容易にするため、融通性のある便利なコンピュータを構築することが非常に重要でした。このコンピュータ活用で拡張機能と新しい要求を容易に満たすことができ、そして経済的なコントロールのために必要なデータに容易にアクセスできるだけでなく、生産状況を良好に把握できます。

フレックスミックスコンピュータ (FlexMix PC)は、大規模で複雑な飼料工場のコントロールに最適な道具です。

このシステムは、標準的なコンピュータをベースにしており、グラフィックソフトウェアを備えた接続済みのコンピュータを介して最大の展望を確保し、そして非常に使い易いです。

とりわけ直接スキョル社のサービス部門から効果的なサービスと欠陥修整を確実にするモデムを介して飼料工場システムの更新と操作が可能です。

### センターでの粉碎機コントロール

粉碎機は、飼料工場内で最大のエネルギー消費者であり、それ故に、飼料の最適構造の達成同様エネルギー消費のため、可能な限りの粉碎機コントロールは重要です。

フレックスミックス(FlexMix)とスキョル社のディスクミルの組み合わせは、最善の資源有効活用を提供します。

フレックスミックス(FlexMix)は、さまざまな動物グループに対する正しい飼料構造が得られるように、さまざまな配合で色々な原材料の粉碎度を変えられるようにプログラム作成が可能です。これは、最善の飼料効率と健康を保証します。

現代の農業生産者は、スキョル社のフレックスミックス(FlexMix)活用で柔軟性の増加そして飼料生産を最適にコントロールするという将来の要求を満たすことができます。